

平成22年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属三原幼稚園・小学校・中学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
教育課程・ 学習指導等	幼小中連携教育プログラム開発事業	【大学と連携して, 学校教育に係わる研究開発の全国的・地域的拠点校を目指す】 幼小中一貫の教育力を生かした創造的問題解決能力の育成—国際的資質としての人間関係力を基盤として—	「CAPS部会」「保育・教科部会」「かかわり学習部会」のカリキュラム開発	【成果指標】 カリキュラムの開発状況 【判断基準】 各プロジェクトのカリキュラムが完成すること	「CAPS部会」「保育・教科部会」「かかわり学習部会」とも公開研究会および年度末までにカリキュラム開発を行い, 公開できたり来年度に向けての準備が整ったりした。	B	本年度の目標をほぼ達成している。	B	これまで取り組んできたカリキュラム開発について実践や競技会, アンケートなどを行って, 研究の成果と課題をまとめることができた。今後, 幼小中の教員の相互乗り入れの可能性を検討する必要がある。
教育研究等	めまぐるしく変化・流動する社会に能動的にかかわり, 自分たちの未来を創造していく力を育成するための実践的な研究開発事業	【教育研究】 めまぐるしく変化・流動する社会に能動的にかかわり, 自分たちの未来を創造していく力を育成するためのプロジェクトを立ち上げ, 実践的な研究を行うための調査を実施し, 研究テーマを策定する。	CAPS (Creative Abilities in Problem Solving) 部会を立ち上げ, 幼小中の教員が所属し, 実践的な研究を行う。	【成果指標】 保育・裁量の時間・総合的な学習の時間で「創造的問題解決力」を身につけさせることができたか 【判断基準】 子どもの姿からの見取り, 授業実施後の感想, ルーブリック評価	部会を立ち上げ, 研究構想を練り上げている。また, 保育・授業の中で「創造的問題解決力」育成に重点を置いた単元を開発している。	A	本年度の目標を十分達成している。	A	創造的問題解決能力の学びの過程を身につけさせることができた。一方では, 創造的思考力はCAPSの時間で培い, その力を保育・教科学習で発揮させることが来年度の課題である。また, 自己を表現するための「表現する力」をつけるための自己表現力開発の単元の位置づけについて配慮する必要がある。
	不易である保育・教科学力の向上を図るための研究開発事業	【教育研究】 不易である保育・教科学力の向上を図るための構想や単元の開発を行うことで, 確かな学力を培うための実践的な研究を行うための調査を実施し, 研究テーマを策定する。	保育・教科部会で研究構想を策定し, 確かな学力を培うとともに「創造的問題解決能力」育成のための基盤となる「創造的思考力」育成を導くための学習過程の試行を行っている。	【成果指標】 不易の学力と「創造的思考力」育成のための学習過程の創造 【判断基準】 個人内評価, 相互評価, パフォーマンス評価, ルーブリック評価を行うことで, 「創造的思考」による解決方法を実践する能力が身についたことを把握する。	保育・教科学習の中では, CAPSの時間に培った「創造的思考力」を発揮して授業づくりを行い, 来年度に向けたカリキュラムづくりを行うことができた。	A	本年度の目標を十分達成している。	A	CAPSの時間で培う力とそのプロセスの中で活用する「創造的思考力」を保育・授業で発揮させるというすみ分けを行い, 来年度に向けてのカリキュラムづくりを行うことができた。保育・教科における年間テーマを明確にし, その実践が求められる。

平成22年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属三原幼稚園・小学校・中学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
教育研究等	「かかわり合う力」=「人間関係力」育成のためのかかわり学習開発事業	【教育研究】より直接的・体験的なかかわりを通して、「他者や集団と豊かにかかわり合う力」=「人間関係力」を育成するための調査を実施し、研究テーマを策定する。	幼小中相互にかかわった合同行事を見直し、開発する。	【成果指標】人間関係力の向上が図られたという園児・児童・生徒の意識 【判断基準】合同行事を計画的に実施すること 児童・生徒の意識調査の実施	幼小中の合同行事では、小中の自伸会を中心にして人間関係力向上のための新しい企画に取り組むことができた。	A	本年度の目標を十分達成している。	A	幼小中合同授業の新しい試みや道徳・特別活動の総合単元の充実からある程度の成果を得ることができた。また、それを書籍としてまとめることもでき本学園としての試みを発信することもできた。評価については、引き続き検討していく。
社会連携・社会貢献活動等	本学校園の教員による研修の場の設定や研究紀要の作成による、地域の教育力向上に貢献する事業	【地域教育への貢献】本学校園の教員による研修を行ったり、研究紀要の作成・発信により、地域の教育の質的向上に貢献できる。全国的なレベルで地域貢献のための研修内容を検討することにより、研修内容の向上に努めることができる。	本学校園の教員による公開授業・ワークショップなど研修を計画・実践することにより、地域の教員へ研修の場を提供する。	【成果指標】地域の教員と共に研修できる公開授業等の実施とその成果状況 【判断基準】研修の場の実施の有無・実施した教員や参加者の評価	計画的に進める事ができ、参加者からも評価を得ることができた。	A	本年度の目標を十分達成している。	A	本学教員による公開授業・ワークショップ・研究紀要の作成・発信等は計画的に行う事ができた。地域のあるいは全国的な教育力向上への提供ができた。地域の教育力向上のための全国的な調査は幅広い形では実施できなかった。
	各事務局の運営などを通して県内の幼児教育センターとしての役割を果たしながら、県内の教育力の向上に努める事業	【地域貢献】幼稚園は、広島県幼稚園協議会、広島県内幼稚園・保育園連絡協議会、三原市保育協議会の事務局やフレーザー祭の実施を推進することにより、幼児教育の今日的課題に応える企画・開催をセンター的役割として行う。	事務局の運営と共にセミナーや講演会を企画運営する。その他協議会の開催に協力する。	【成果指標】事務局の運営とともに、県内の幼児教育向上に貢献するセミナーや講演会の開催 【判断基準】事務局会議の開催・セミナーや講演会の開催とともに参加者の充実内容	事務局の運営やセミナー・講演会の開催、協議会への協力をを行い、県内の幼児教育関係者からの評価も得られた。	A	本年度の目標を十分達成している。	A	各事務局(3事務局)の運営やセミナー(2回)・教育講演会(2回)を開催する事が出来た。全国国公立幼稚園連盟の協議会の開催への協力も行った。今後も事務局運営を通して、会員のニーズに応えられるセミナー・講演会等の開催を実施するとともに県内や市内の教育力向上に努めたい。

注) 太枠内は、学校関係者評価委員会が記入する。

平成22年度 学校関係者評価報告書

評価点		自己評価	学校関係者評価
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属三原幼稚園・小学校・中学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
学校経営・安全管理等	幼稚園・小学校・中学校が一体となって一貫教育の研究を行い、全国にその教育の成果を発信し、教育力向上に貢献する事業	【地域教育への貢献】 大学と連携して研究を行うと共に、全国や地域に研究成果の発信や研修の場の設定に努めることにより、全国や地域の教育力の向上に貢献する。	幼稚園・小学校・中学校が一体となり一貫教育として行った研究成果を公開研究会で発信するとともに研修の場を設ける。	【成果指標】 公開研究会で研究成果の公開とともに研修の場の設定 【判断基準】 公開研究会の実施の有無と参加者の評価	公開保育・授業等を行うとともに、研究内容を公開することができた。参加者からも評価を得ることができた。	A	本年度の目標を十分達成している。	A	幼稚園・小学校・中学校が一貫教育として研究を行い、公開研究会で成果を発表する事ができた。教師・保育士・学生・その他教育関係者等幅広く参加を得る事ができた。開催日により参加者の多少が生じたので日程については課題である。
	園児・児童・生徒が安心・安全な環境で学習できるための円滑な学校運営	【円滑な学校運営】 園児・児童・生徒の安全に関して、地域やPTAと連携して安全管理体制をより強化する。	幼稚園・小学校・中学校の教職員やPTA・警察が一体となり、不審者侵入避難訓練を計画的に実施する。	【成果指標】 不審者侵入を想定した避難訓練の実施と警察署員から指導・評価 【判断基準】 不審者侵入避難訓練の実施及び成果・課題の整理	教員・警察・PTAと連携を図りながら計画的に実践できた。	A	本年度の目標を十分達成している。	A	不審者避難訓練や学習環境の整備等は計画的に実施する事により、安全管理体制も機能する事ができた。地区安全衛生委員会を通して、学習環境の整備も不備を整えていくことができた。今後も安全管理体制の充実・確立を進めていく。
その他	附属三原学校園での教育実習を希望する全ての学生に対する幼小中一貫の教育実習の実施	【大学・学部との連携・協力の強化に関する具体的方策】 附属教育実践総合センターと連携しながら、幼稚園・小学校・中学校教員免許を取得する実習生のために質の高い21世紀型の幼小中一貫の教育実習プログラムを実施し、その評価に基づいて改善を図る。	幼稚園、小学校、中学校の教育実習担当者が連絡会を行い、相互に連携できる実習内容について計画の立案と実行をする。	【成果指標】 実習プログラムにおいて一貫教育を主眼とした実習内容の検討 【判断基準】 検討委員会の設置	幼稚園・小学校・中学校の教育実習担当者が相互に連携できる実習内容について計画の立案と実行をした。	A	本年度の目標を十分達成している。	A	幼小中一貫教育校として、独自の教育実習プログラムを実施でき、実習生にとって実りのある教育実習となった。また、他大学や他学部の学生と一緒に実習することで、教育学部の学生にとっても刺激となっていた。次年度以降も継続して実施する。

平成22年度 学校関係者評価報告書

評価点		自己評価	学校関係者評価
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属三原幼稚園・小学校・中学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
そ の 他	外部研究資金獲得事業	【学校運営の改善に係 わる具体的方策】 科学研究費補助金等 の学部研究資金を獲 得した研究のセミナー を行い, 外部資金獲得 の一層の向上を図る。	様々な研究補助金の 申請に取り組む。	【成果指標】 学部研究資金への申 請状況 【判断基準】 全教員が科学研究補 助金に申請すること	科学研究研究補助金につ いては, 全教員が申請した。	A	本年度の目標を十分達成し ている。	A	教員の外部資金獲得の意識 が高まった。様々な外部資金 獲得に努める。

注)  太枠内は, 学校関係者評価委員会が記入する。